

グリーンハーバー

NPO法人 みどりの市民 ニュースレター

No.63 号
2024. 1

発行:NPO法人
みどりの市民
〒380-0948 長野市差
出南 2-14-23 フンゲ
イ印刷ビル3F
発行人:高木直樹

《みどりの市民 NPO設立20周年記念事業》

「Wende2」上映会の開催報告

理事 浜田 崇

**Wende 2 未来へのアプローチ
映画上映会・トークイベント
とき/10月20日
ところ/長野市勤労者女性会館
しなのき**

(主催:長野県地球温暖化防止活動
推進センター/共催:NPO 法人みど
りの市民)

昨年(2023年)の夏はとても暑かったのを覚えていると思います。気象庁の記録によれば、1898年の統計開始以降最も暑い夏となりました。またこの冬は暖かく雪がとても少ない状況です。私の職場がある飯綱高原でも雪は少なく、1月末の積雪深は35cmしかありませんでした。このほかにも、国内各地で豪雨が頻発化し大きな災害が毎年のように起きて

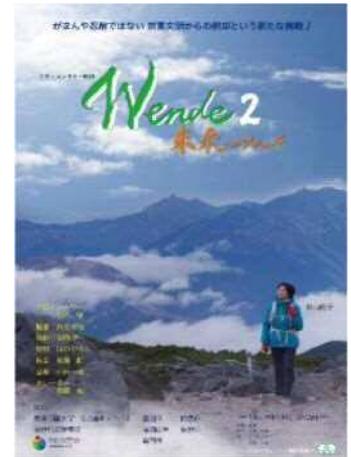
います。「気候沸騰化」という衝撃的な言葉に象徴されるように、これまでになかったような気候変動の影響を実感する日々が続いています。

気候変動をこれ以上進展させないためには脱炭素=二酸化炭素の削減が非常に重要です。世界、国、長野県が2050年にゼロカーボン達成しようと一体となってさまざまな取組を進めています。みどりの市民でも、ゼロカーボンに少しでも貢献できるよう、これまでに省エネに関するさまざまな活動を行ってきたところです。

しかし残念ながら、ゼロカーボンを今この瞬間に達成できたとしても気温の上昇はすぐにはとまらず、気候変動は避けられない状況にあります。今後、さらに暑い日や豪雨が増えると予測されており、これから起きる気候変動が私たちの暮らしや社会に及ぼす影響をできるだけ回避し、被害を最小限におさえることがとても重要になってきます。この対策は適応策と呼ばれていますが、適応策はゼロカーボンとまさに車の両輪のように進める必要があるのです。

ただ適応策は一般的にはまだあまり知られていません。そこで、みどりの市民では、適応策を少しでも多くの方々に知っていただこうと、地域の適応策の取り組みをテーマにしたドキュメンタリー映画「Wende2～未来からのアプローチ～」の上映会を、長野県地球温暖化防止活動推進センターとともに2023年10月20日に長野市勤労者女性会館しなのきにて開催しました。昼と夜の二回に上映し延べ40の方に観ていただきました。夜の部では上映会の後、高垣監督と主役の杉山範子さんをまじえたトークイベントも行い、鑑賞された方々と意見をかわすこともできました。

2月18日(日)には東御市中央公民館での上映が予定されています。まだご覧になっていない方は、適応策を知るよいきっかけになりますので、ぜひ足を運んでいただければと思います。



第2部上映後のトークイベント
(左から高垣監督、杉山さん、浜田)

f事務所移転「新たなる旅立ち」

～新事務所はシェアオフィス～

2023 年末、みどりの市民の事務所が、若里の信州大学工学部「UFOながの」から差出南の「ブンゲイ印刷」ビル3階へ移転しました。5回目の転居です。東側の窓からは遠く菅平が見渡せる明るい事務所です。



窓から見える菅平とあやとり橋

～新事務所探し顛末記～

2018 年 6 月から活動拠点としてきた信州大学工学部「UFOながの」は、入居期限 6 年という決まりがあり、2023 年 12 月末までに明け渡すというのが至上命令。

新しい事務所探しは、はじめ、心当たりの関係者、不動産屋、コワーキングなどを当たったが、立地・家賃・駐車場などの条件が折り合わず、なかなか見つからなかった。入居期限が迫る中で、知り合い、出入りの業者などに会うたびに声を掛けた。ある日、S新聞の広告担当の方から電話があった際、何気なく「いま事務所を探しているんです。どこか知りませんか？」と声をかけると、「あるよ、知り合いの社長のビルが空いている」という返事から、急展開。翌日、その物件を見に行った。エレベーターなしの3階。暗いなど、少々難があったが、とにかく家賃が安く、敷金礼金なし。代表らに相談をし、『任す』という返事をいただき、仮予約にこぎつけた。その後、交渉により、場所は南東の日当たりの良い部屋になった。正式に決まったのは 11 月下旬過ぎ。多くの人の協力で、12 月 26 日 27 日に引っ越しを終え、ようやく 28 日に「UFOながの」を引き渡すことができた。UFOながの 6 年間感謝！

ちょっとしたご縁から新事務所を見つけることができた。入居した 3 階のフロアは、3 つの団体がシェアしている。みどりの市民と隣り合っているのは、中学生・高校生を対象とした学習塾で、主に夕方と土日が営業日。昼間でも、時折、保護者や中学生が来て相談や勉強をしている。若いエネルギーが伝わって来て、ぬくもりを感じる場になりつつある。



奥がみどりの市民の事務局、手前が共有スペース、右手奥が学習塾

～今後に向けて～

気候変動、地球沸騰化、大災害、戦争・武力紛争など、世界は喫緊の課題が山積みです。2030年の「SDGs」の目標年度まで、あと6年。こんな現実を前に、ともすれば無力感を覚えてしまいますが、一人一人が自分のチカラを信じて、新しいみどりの市民の活動拠点から何を

発信していくのか、新事務所の窓から、白銀に光る菅平を見ながら夢想する毎日です。皆様お気軽にお出かけください。（事務局担当渡辺報告）

《生ごみ減量アドバイザー例会「松本聰先生を囲んで」》

1月29日（月）ふれあい福祉センターで、生ごみ減量アドバイザーの例会を開催。内容は、土壌学の専門家で東京大学の名誉教授である松本聰先生の講義と新年会でした。

松本先生の講義は「生ごみの堆肥化をうまく進めるため」と題して、何故生ごみを、堆肥の材料に選ぶのか、又「土づくり」には生ごみ堆肥が大切であることを他の堆肥と比較して具体的にお話された。先生のエネルギーッシュなお話にやる気をいただいた。講義の後、コロナ対策で黙食での昼食だったが、交流タイムには、お互いの情報や思い、先生への質問でにぎやかな交流会となった。先生は次回のパート2を約束してくださった。乞うご期待。



(EX) 野菜の外皮には栄養がいっぱい スイカの皮には「シルトリン」という血流を改善する効果があるアミノ酸で果肉の2倍も含まれている。

エシカルセミナー「動物に配慮する 2 つの方法」

〔日時〕 2024年1月24日(水) 14:00-16:00

〔講師〕 岡田千尋氏 NPO法人アニマルライツセンター代表理事 日本エシカル推進協議会副会長

〔参加方法〕 ハイブリッド 会場=JA長野県ビル又はオンライン(Zoom) 見逃し配信

〔参加者〕 会場参加者は19名、オンライン参加は27名、スタッフ6名の計52名。



岡田千尋氏

1月24日降雪の朝であったが、無事開催できほっとした。前日なら新幹線の終日事故で講師が到着できない恐れがあった。主催者から、NPOとしてこれまでエシカルに取り組んではきたが、動物福祉の学習は初めてで楽しみである、と挨拶があった。

「アニマルライツとアニマルウエルフェア」

講師の岡田千尋さんからは、最初に「アニマルライツ」と「アニマルウエル

フェア」の解説があった。前者は動物にも人と同じように苦痛や虐待を受けない権利があるとの倫理的、哲学的視点だが、後者はより具体的な動物福祉の実践を求める手段であり、家畜の飼育基準を国際的に高めてゆく運動でもあるとその相違を指摘した。

順次、日本における鶏や豚、牛の飼育状況をビデオ紹介されたが事前に「見たくない場面では目を閉じて」と注意があるほどの悲惨、無残な状況であった。普段私たちの食卓に上る肉や卵がいかに工業的、非生物的に生産されているかが展開され胸をつかれた。



そして、世界ではそんな現状を改善すべく、市民が肉や卵を扱う企業に「アニマルウエルフェア」に配慮した生産品を使うように働きかけ、次々と不使用宣言を公表した結果、生産者も動物福祉に配慮した飼育と処理を行うようになってきたという。

そんな世界の趨勢の中で、日本では飼育の基準やルールがほとんどなく、もっとも遅れていることが数字で示され愕然とした。ブラジルでは熱帯林を破壊した後で家畜の飼育をおこなっているが欧米向けに輸出するため生産者も「アニマルウエルフェア」に準拠した生産、処理をおこなっているとのことに、これまでは国産の鶏肉を買っていたが、それは大きな過ちであったのかと、質疑の中で思わぬ反省がでた。

家畜や肉生産の現状を知り、少しでも動物福祉に配慮した食品を選ぶこと、そしてそうした行動を家族、知人、社会に発信することの2つが明確になったセミナーであった。

(報告: 渡辺隆一理事)

《事務局から》講演の様子 YouTube があります。視聴されたい方は事務局まで連絡下さい。URLを送ります。

*****【セミナーから】*****

世界はケージフリーへ / 同じケージ飼育でも日本のケージ飼育は劣悪、日本最大手の養鶏場の1羽あたりの飼育面積は285 cm²/羽 韓国の規制の約半分以下しかスペースを与えていない。韓国:1羽あたりの飼育面積750 cm²以上日本のケージフリーの割合(羽数換算)は1.12% (2023年 養鶏農家への電話アンケート及び公表データによる調査 アニマルライツセンター調べ)

2023年度 みどり農園だより (ナガブロより)

みどり農園へ行こう！

サツマイモ掘り Vol1 9月23日(土)



やったーこんな大きなのが採れた

暑さの続いた9月23日、いつもより早く朝8時半から作業開始。子ども2名含む9人が集まり、5月の連休明けに植えたサツマイモ11本の収穫をしました。まず「つる」を鎌で取り払い、手作業で掘り起こし。今年は晴天が続き立派に育ちました。芋掘り作業だけでしたので、9時半過ぎには終了し、掘ったサツマイモはお土産として持ち帰りました。



皆並んで手でおいも掘

サツマイモ掘り Vol2 10月22日(日)

快晴の10月22日、朝9時から2回目の「サツマイモ掘り」を開始。5月に植えたサツマイモが成長し生えた枝芽を6月19日に移植したものです。今回も9人(子供3人)が集まり、好天に恵まれ順調に育ったサツマイモの収穫。子どもたちが楽しみにしていた焼き芋は、紫蘇や枯草で火を焚いて行いました。焼き芋を食べて10時半には散会しました。



秋空のもと、焼けたかなー

大根掘り 11月19日(日)

夜半から雪となり畑も少し白くなった11月19日、朝9時から子ども含む7人が集合して大根掘りを行いました。今年は大根の種まきの時期に晴天が続きなかなか発芽しませんでした。足元が悪い中、秋の雨で何とか成長した大根(聖護院)を、例年の半分ほどでしたが皆で引き抜きを行いました。作業は30分程度で終了。これで今年の全体作業は終了です。一年間お疲れ様でした。(文：山口、写真：渡辺)



お知らせコーナー



生ごみいきいきサロン 第2弾

～生ごみ堆肥化相談室～

とき：2月10日(土) 13時～15時

ところ：ふれあい福祉センター1Fテーブル

参加費：無料

生ごみ堆肥化上手くない人、
ごみについてモノ申したい人集まれ

生ごみ減量アドバイザー例会&

るネット交流会

とき：3月7日(木) 10時～11時30分

ところ：ふれあい福祉センター第2・第3会議室

《申し込み方法》

下記みどりの市民の事務局へメール、Tel、faxで、
お名前、連絡先をご連絡ください。

みどりの市民の会員数 (2023年12月1日現在)

正会員 37人 賛助会員 12人 団体賛助会員 1団体

〒380-0948 長野市差出南 2-14-23 ブンゲイ印刷3階

TEL&FAX 026-217-0514

E-mail: midoric2023@gmail.com

URL <http://midorinoc.sub.jp/>



《陽だまりの窓辺で》 3か月前までは1月はどうしているのだろうかと思像もつかなく、何とかなるだろうとは思いつつ不安な日々であった。おかげで今はこうして事務所にいる。生活の基盤を築くためには、「衣食住」の「住」が定まることだと聞いたことがある。地震で住居を奪われてしまった能登地震の被災者の方はどんなにか不安だろう。一刻も早い復興を願っている。暖かい事務所にいることに感謝しつつ、私に何ができるのだろうか。気持ちばかりが焦る。(w.h)